

(3)HPV 検査

ヒトパピローマウイルス (HPV) は、成人女性の殆どが一度は感染するといわれるごくありふれたウイルスであり、感染しても多くは自然消滅する。

高リスク型 HPV の持続感染は子宮頸がんの原因となることがあるが、高リスク型 HPV に感染しても子宮頸がんになるまでに長期間（平均約 6～10 数年）かかるため、定期的な検査は子宮頸がんの早期発見に有効である。

細胞診と同時に採取した細胞を用いて HPV 感染の有無を調べる検査である。

HPV 陰性(－)の場合：現在は、HPV に感染していない。しかし今後、感染を引き起こすこともあるため、細胞診で異常がない場合でも定期的な検診が有効。

HPV 陽性(＋)の場合：細胞診に異常がない場合も経過観察が必要。

細胞診で変化や異常がある場合は要精密検査。

※HPV 陽性であっても多くは免疫力で自然に消失するため、定期的な検査で持続感染していないかを調べることで、将来、子宮頸がんになるリスクの大小を確認できる。

<子宮がん検診 HPV 検査判定結果>

① 1 日人間ドック

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰 性(－)	6	226	695	645	422	93	5	2,092	92.9
陽 性(＋)	1	33	61	38	21	5	1	160	7.1
受診者数	7	259	756	683	443	98	6	2,252	100.0
陽性率(%)	14.3	12.7	8.1	5.6	4.7	5.1	16.7	7.1	

② 2 日人間ドック

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰 性(－)	2	14	79	63	22	10	1	191	91.0
陽 性(＋)	1	4	7	4	1	2	0	19	9.0
受診者数	3	18	86	67	23	12	1	210	100.0
陽性率(%)	33.3	22.2	8.1	6.0	4.3	16.7	0.0	9.0	

③ 施設内健診（協会けんぽ含む）

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰 性(－)	8	36	68	38	21	1	0	172	92.5
陽 性(＋)	1	7	3	3	0	0	0	14	7.5
受診者数	9	43	71	41	21	1	0	186	100.0
陽性率(%)	11.1	16.3	4.2	7.3	0.0	0.0	0.0	7.5	

④ 施設外健診（協会けんぽ含む）

※受診者なし

⑤ 全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診〔再掲〕

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰 性(-)	4	25	48	28	17	0	0	122	93.1
陽 性(+)	1	4	2	2	0	0	0	9	6.9
受診者数	5	29	50	30	17	0	0	131	100.0
陽性率(%)	20.0	13.8	4.0	6.7	0.0	0.0	0.0	6.9	

(少数点第 2 位以下は四捨五入とする)